

第 299 回静岡エフエム放送番組審議会議事録

1. 日 時 平成 26 年 3 月 4 日 (火) 11:50~13:00
2. 場 所 静岡エフエム放送本社会議室
3. 番組聴取合評 [番組名] ジルデコ presents SUNDAY LOUNGE
[放送日時] 平成 26 年 2 月 23 日 (日) 21:00~21:30
[出演者] JiLL-Decoy association

4. 出席者 [委員] 委員長 出口泰規 委員 角田哲康
委員 木宮敬信 委員 小野晃司
[会社] 代表取締役社長 祐嶋繁一
放送本部長兼編成制作部長 久保田克敏
編成制作部副部長 寺田和史

5. 事務局報告

- 4 月 1 日付組織変更、人事異動について
- 今期決算の見通しについて
- 来期予算編成について

6. 番組審議

- [対象番組] ジルデコ presents SUNDAY LOUNGE
[放送日時] 平成 26 年 2 月 23 日 (日) 21:00~21:30
[番組内容] JAZZ / CROSSOVER POPS アーティスト、ジルデコこと
JiLL-Decoy ssociation の chihiRo 【Vo】、kubota 【G ※静岡市清水区
(旧蒲原町) 出身】、towada 【Ds】 の 3 人が贈る音楽性豊かなプログラム。
良質な選曲やジルデコ 3 人によるアコースティック生演奏で日曜
の夜を彩る。

[聴取・合評での主な意見]

- 木宮委員長 よい印象。アーティスト番組ではあるが、静岡を意識し、3 人のトークのバランスもよい。ChihiRo さんの声はよく通り、さわやかな印象がある。30 分の番組でこれだけの音楽を入れるのは難しいことだが、よく凝縮されていて、コンパクトだがボリュームのある感じに仕上がっている。カバーのコーナーも原曲をしっかりと聴かせ、自分たちのコメントも入れ、丁寧に対応していて好感が持てる。ただ、スタジオライブの後の BGM はボリュームが中途半端。これならない方がよい。

- 角田委員 番組としては上質。好感が持てる。スタジオライブの演奏もよい。ただし、大瀧詠一の曲をカバーすることで、何を伝えたいのかがよくわからない。年代的に大瀧詠一のことは知らないのはわかるが、「天然色」という言葉の意味も知らずに演奏するなど、大瀧詠一のファンであれば、憤りを感じるようなトークだ。大瀧詠一についてしっかりと情報を伝えることも必要だ。ラジオはリスナーを啓発するという役割もあるので、そういう意味では物足りない。
- 小野委員 30分番組の構成としてはおもしろい。ただ、カバーのコーナーでは、曲について面白く聴かせるための噛み砕かせ方を工夫するべきだ。気軽さはあるが、自己満足な面もある。表裏一体だ。男性2人の声がボリューム的に聴き辛い。何と言っているかわからないところがある。
- 出口委員長 トークの量が適当で、オンエアする曲が活きる番組だ。ながら聴きするより、しっかり耳を傾けて聴きたい番組だ。ChihiRoさんが前後の脈略と関係なく「そんなわけで」とよく言う。口癖だと思うが耳につく。カバーする曲の解説などをもう少し行うべきだ。
- 会社サイド 前回（第298回）では、レポーターの現場感、そこから放送している意味を感じさせる演出についてご意見をいただきました。番組づくりの参考とさせていただきます。今回（第299回）ご指摘いただきました点につきましても、今後の番組作りに反映させ、改善するようにいたします。

7. 次回開催日 平成26年4月8日（火） 11:50～13:30を予定

以上

番組審議会委員長

出口 泰 規